



朝日に照らされる洞爺村市街地

あけましておめでとうございます

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年頭にあたつて

洞爺村長

菊地 勉

村民の皆様、あけましておめでとうございます。家族そろって清々しい新年を迎えられたことと存じます。

さて、昨年を振り返ってみますと、村の最重要課題でありました、虻田町との町村合併の選択をはじめ、国の三位一体改革に伴う行財政改革、少子高齢化の急速な進展に伴う対策、安全・安心の地域づくり、そして、地域振興対策としてのまちづくり交付金事業の採択要望、道々各線の改修陳情など、山積みする重要な課題を抱え、合併という限られた時間の中で気の休まるひまのない二〇〇五年でありましたが、多くの課題に対し将来につながる道筋を付けることができました。ここに、村民の



皆様のご支援・ご協力に対し、心から感謝を申し上げますとともに、新年度からの地域づくり計画について申し上げます。

一、町村合併について

豊浦町・虻田町・洞爺村との間で協議をしましりました合併協議も、最終局面において、虻田町と豊浦町で実施した住民投票の結果を受け、豊浦町・虻田町・洞爺村合併協議会より豊浦町が離脱いたしました。

このことから本村では、虻田町との合併を判断するため住民意識調査を実施し、各地区での住民説明会を経て、虻田町と洞爺村との合併協議を進め、本年三月二十七日に合併することに至りました。

この間、わずか一年と言う短い期間にも係わらず、虻田町と洞爺村との合併議決、北海道知事への合併申請、二町村間の事務事業の調整、条例、規則等の改編・整備など現在事務調整を全力を上げて行っているところであります。合併に伴って地域の皆様が混乱することのないよう、新しい町「洞爺湖町」の誕生準備に努めてまいります。

二、安全・安心の村づくりについて

最近、国内においては、小中

学生の連れ去りや殺人事件など、悲しい出来事が繰り返して発生しております。

このような事件・事故から子どもや高齢者を守るため、防犯協会やボランティアセンターが中心となり、学校、PTAなど、村内各団体との連携の中で、安全・安心の村づくりが推進され、その効果として幸い無事故で新年を迎えました。心から村民の皆様へ感謝を申し上げます。

しかし、昨今の車社会、情報化社会では、想像のつかない事件や事故がいつ、どこで起きるかわかりません。守られるべき子どもや高齢者に対して、皆様に目配り、気配りをお願いし、地域の安全・安心は地域で守るを合言葉に村民総参加の安全・安心運動の推進を願うものです。

三、道路などの整備について

道道洞爺虻田線（通称洞爺湖ぐるっと一周西回り線）は、村民の生活に最も重要な道路として、昭和四十年代から要望を続けて来た道路であります。い

まだ大雨時には交通規制がなされ、大型バスの通行もままならない状況にあります。村では、国の厳しい財政状況下益々困難を極める道路整備に対し、大型バスの通行可能な二車線確保を

前提に、地域提案型の要望をいたしました。この提案が受け入れられ、平成十八年度予定の青淵付近の地質調査及び環境負荷に対する現地調査は、繰り上げて本年度実施していただきました。

また、道道豊浦洞爺線の香川入口から農協スタンド前までの湖水側歩道整備事業についても平成十八年度から事業着工がなされる計画となっております。

四、まちづくり交付金事業について

洞爺湖の自然や洞爺村の文化・産業を有機的に結び付け、潤いと魅力ある滞在交流型観光の推進と中心市街地の活性化を図るため計画しておりました洞爺村市街地区のまちづくり交付金事業について、ほぼ採択が決定し、総事業費六億五千万円で、平成十八年から平成二十二年までの五か年事業として実施することになりました。

事業の内容は、これまでも広報でお知らせした内容のとおりであります。

五、新町における洞爺総合支所と洞爺消防支署の合築について

これまでの長い間の懸案でありました洞爺村の役場庁舎（合

併後の総合支所）及び消防洞爺支署を来年度、総合センター横に合築することを決め新町に引き継ぎます。

合併しても、住民の皆様の利便を守り、そして地域振興の拠点として、また防災や安全・安心の確立のために建築いたします。

六、新町元年に期待して

本年三月の合併に向けた洞爺村の課題の内、特に重要と思われる事項についていくつか記述いたしました。合併はまさに地域の将来を左右する極めて重要な節目であります。この合併を悲観的に捉えるのではなく、両町村の持つ良さを持ち寄り新たな地域づくりへと発展させる絶好の機会として捉え、洞爺村の地域として計画している各種事業等を新町建設計画へ引き継ぎをいたします。

新たな地域づくりには数年単位の歳月が必要だと思いますが、洞爺湖町住民の協調と知恵を持って、新町の発展に、皆様のご理解とご協力をお願いし、村民の皆様のご健勝と幸い多き年となりますようご祈念申し上げます。頭のご挨拶といたします。

新たな飛躍 洞爺湖町へ 議員一丸となつて！

議長 佐々木 良一

皆様輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平成十七年度は台風の被害もなく、洞爺村の主産業である農業にとつて、実り多い年でありました。しかし、反面、豆類・野菜類を中心に過去に例を見ない低価格で推移する等、農家経済にとつて誠に厳しい年でありました。各界の力を集結し、この大きな苦難を乗り越えなければと考えている所です。さて今年は、いよいよ虻田町との合併を控え、洞爺村として最後の年となりました。

ました。

この間、大勢の方々の郷土愛の心と尊い奉仕の精神が、今の洞爺村の礎を作り上げられたことを振り返り、深甚なる敬意を表するものであります。

さて世界先進国の中で、唯一中央集権国家であった日本もついに地方分権型国家へとその方向の舵を切りました。明治以来の行政システムの行きづまりと財政難の中、多くの自治体が町村合併により新たな道をたどり始めました。

もとより私達の最も身近な地域社会は、行政機構がどう変化しよう、豊かな文化、心をもった地域コミュニティ社会を作り上げていくことが基本と考えます。

合併によつて洞爺地区にも、地域のことを自分達で考えて行く「地域審議会」が設置されます。この地域審議会と、各地の自治会活動こそが洞爺の地域づくりのよりどころになると思います。

今こそ洞爺にとつて「自主自立」の力強い歩みを、私達一人ひとりの意思によつて始める時が来しました。

私も議会も、このことを充分念頭に置き、合併が失敗に終わることのない様、新しい町洞爺湖町



において頑張る所存であります。

特に、合併による議員の在任特例の意味を深くかみしめ、議員一同一丸となつて洞爺地区の発展の為に新しい町づくりの基礎となるこの一年、全力で立ち向かつて行く所存ですので、皆様方の御叱責御意見を賜りたく存じます。

この洞爺地区が、新しい発展の道を力強く歩むことを初めに、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

教育長 桑原 敏

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年は虻田町との町村合併や小学校の統合が三月に実施されるなど村の歴史が始まって以来の大きな節目の年となりました。



な節目の年となりました。

日本の国は、少子高齢化の急速な進行や地方分権社会の実現に向けて、大きな改革の渦中にありますが、二十一世紀の時代に、一人ひとりがどう生きていくのか、どのように自己実現を図っていくのかが問われていくことになるのだと思います。

洞爺村は、素晴らしい自然景観に恵まれ、更に文化芸術の香り漂う世界にも稀な地域であります。

新年度からは、新たに採択された「まちづくり交付金事業」により、一層湖畔に面した地域一帯の魅力アップが計画的に推進され、長年の課題も解消される目途がついたことは喜ばしいことです。

時代の変遷にともない様々なことが移り変わるの世のならいではありますが、時代がどのように変化しても次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つことを願うのは、全ての大人共通の願いであります。子どもたちが安心して生活できるよう保護者や学校、地域の皆様が一体となった活動が行われていることに心から感謝しているところですが、さらにこの運動を充実させていこうとしている取組みに対して、いまだ健在な地域の教育力を感してなりません。

子どもたちも、小学校統合により同年齢の仲間が増え、お互い

に良い影響を与えあうことによつて、生きるために本来に必要な力を身に付けることを願うものですが、高齢者を含めた大人たちも、長寿社会にあつて生きがいを感じながら楽しく人生を過ごすことを願うものです。お互いに持つていらっしゃる特技や技能を、必要とする人たちに、子どもたちに教えてあげるなどはどうでしょうか。地域で生きている皆さんが、ある時は先生になり、ある時は生徒になつて、常に必要なことを学び続ける社会、住民同士で教えあう社会、すでに、洞爺高校での民間講師招聘事業や、各学校での総合的な学習の時間や体験学習、社会教育事業での地域女性学級などで実践されていますが、もっと気楽に、もっと皆が、教えあい学びあうことができれば素晴らしいと思います。また、新しい町づくりは今年からスタートします。大人も子どもも積極的に何らかの形で参加し関わっていききたいものです。私達の新しい町を、私達自身が誇りを持つて、語れるようにしましょう。皆様にとつて今年一年、充実した良い年になることを祈念し新年の挨拶と致します。

一般会計補正予算、合併関連など全議案を原案どおり可決

第四回洞爺村議会定例会が、十二月二十日に開かれました。

会期を二日間と決めた後、村長及び教育長の行政報告、三名の議員から一般質問があったほか一般会計補正予算、合併関連議案など議案二十一件が原案どおり承認されました。



村長による行政報告

村長行政報告

▽姉妹町村盟約締結三十周年に係る記念事業の実施について

香川県財田町と洞爺村が祖先を同じくする縁故を基にして、姉妹町村の盟約を締結し三十周年を迎えましたことから、記念事業を計画したところですが、次のとおり終了しましたので、ご報告いたします。

一、記念交流事業実績

事業名	期 日	参加人数(随行含む)
財田町民ツアー産業まつりコース	平成17年6月25日～26日(2日間)	49名
財田町民ツアー夏まつりコース	平成17年7月30日～31日(2日間)	49名
伝承文化里帰りツアー	太鼓台を担ぐ会 1班 平成17年10月4日～8日(5日間)	1班 5名
	2班 平成17年10月6日～8日(3日間)	2班 12名
姉妹町村30周年記念式典事業	曙獅子舞保存会 平成17年10月6日～8日(3日間)	11名
	むらびと踊る社中、宮武社中 平成17年10月21日～23日(3日間)	31名
	写真集団洞爺 平成17年10月21日～24日(4日間)	
財田町訪問ツアー	平成17年11月12日～15日(4日間)	45名
事業参加人数計		202名

二、記念品及び記念樹木の贈呈
パークゴルフ用具一式(クラブ等百セット他)

記念樹木(ツツジ十六本、カッラ二十本、シラカバ三十本)

▽洞爺村国際彫刻ビエンナーレ二〇〇五展覧会の終了について

洞爺村として主催する最後の洞爺村国際彫刻ビエンナーレ二〇〇五展覧会が終了いたしましたので、ご報告いたします。

今回のビエンナーレは、昨年からの検討委員会を設け、より地域に根ざしたビエンナーレとすべく検討を重ねてまいりました。

これらの検討結果を踏まえ、今年の四月に新実施委員会・企画五十人委員会を発足させ、企画、実施してきたところであります。今回から新たな試みとして「受賞作家を囲む会」、「審査委員長との鑑賞・講演会」、さらには、村内各団体のご協力をいただき、手づくり

感溢れる洞爺村らしいオープニングセレモニーの開催など、積極的に普及活動を行いました。

その結果、過去最高の四千七十七名の入場者を記録し、成功裏に終えることができました。ご支援、ご協力を賜りました多くの村民の皆様をはじめ関係各位に、心から感謝を申し上げます。

なお、ビエンナーレ二〇〇五における主な取り組みの内容及び受賞作家等は次のとおりとなっております。

受賞作家

賞	作 家 名	作 品 名
大 賞	キフ・パネッテ (ルーマニア)	TRAVELLER WORLD
準 大 賞	瀧川比呂史 (日本)	Personal Library
優 秀 賞	キティチャロエンウィワット・アリア (タイ)	FLYING IN THE BOX
F 氏 賞	小野寺直彦 (日本)	次元境界上の祭禮
伊達信用金庫賞	松本 薫 (日本)	Cycle - 90°「風の予感」

項 目	月 日	内 容
応募締め切り	4月30日	62カ国、600作品の応募がある。
第1次審査会	5月24日	東京都千代田放送会館にてスライド審査を行い、20カ国60作品が選ばれる。
第2次審査会	7月26日	洞爺村総合センターにて行い、大賞など、受賞作品が決定する。
F氏賞村民投票	8月1日～3日	小野寺直彦氏「次元境界上の祭禮」が選ばれる。
ピエンナーレ2005 展覧会	9月23日 ～10月23日	第2次審査会を通過した20カ国60作品を展示。過去最高の入場者数4,077名を記録。
大賞作家を囲む会	9月24日	洞爺村総合センターにて大賞作家キフ・パネッテ氏を囲む座談会を行う。
審査委員長との 鑑賞・講演会	10月 1日	展覧会場にて審査委員長の笹野尚明氏より、作品を見ながら作品の講評を聞いたり、作品について自由に質問する会を催す。
閉館の集い	10月23日	企画50人委員会スタッフが集まり、展示会最終日に展示作品の見納めをする。

▽道道整備並びにまちづくり
交付金事業に係る洞爺村単
独要望活動の実施及び要望
先からの回答等について
本村の重要な課題について、
去る九月八日に胆振支庁（室
蘭土木現業所、洞爺出張所

を含む）、十一月四日には北海道建設部、北海道開発建設部、北海道開発局事業振興部及び北海道地方環境事務所に本村の最重要項目である次の三点について、洞爺村単独要望活動を行って参りましたので、これらの要望項目の現在における要望先からの回答等についてご報告申し上げます。

①道道洞爺虻田線（洞爺湖ぐるっと一周西廻り線）の早期整備について

洞爺村が独自に調査を行い、整備の方法について道路図に定規図、写真を添付するなど膨大な資料を作成して、提案型の要望を関係機関に行いましたところ、要望先からは「このような要望方法ははじめて」とのこと、北海道建設部、胆振支庁、室蘭土木現業所及び洞爺出張所からは、ともに「とにかく何とかするようにしましょう。」との力強いお言葉をいただいたところであり、好意的に受け止めていただきました。

特に、青淵付近の崖等の地質調査につきましては、平成十八年度に行っていたけるとのお話を伺っておりましたが、今月初旬に前倒しをして平成十七年度に実施していただけるとの連絡を受けたところであります。

また、札幌の北海道地方環境事務所におきましては、要望直後の十一月十一日に所長が来村され、全線に至る現地調査を実施していただいたところであります。

②道道豊浦洞爺線（洞爺村市街地間）の交通安全施設（湖側の自歩道）の早期着工について

室蘭土木現業所より、市街地の湖側の歩道整備事業として来年度事業着工の予算措置がなされたと、お話を伺っております。

また、工事につきましては、バス停香川入口から市街地の方に向かい、事業を行うとのことでありあります。

③洞爺村市街地地区のまちづくり交付金事業の採択と事業の推進について

今後の地域振興を念頭に、国土交通省所管のまちづくり交付金事業の採択を昨年度より、道・国等の関係機関に要望を重ねて参りましたところ、十一月四日に北海道建設部より「ほぼ採択が決定」とのお話を伺いました。総事業費は六億五千万円で、期間は、平成十八年度から平成二十二年までの五カ年間で実施することになっております。

以上のように、これまで私も本村の重要な課題といまして、要望して参りました三点につきまして、大きく前進したものと考えているところであります。

▽胆振西部・豊浦町森林組合の合併予備調印について

昨年十一月から合併協議が進められてきた胆振西部森林組合と豊浦町森林組合の合併

予備調印式が、十一月二十一日に胆振西部六市町村長・胆振支庁長の立会のもと、伊達市防災センターで行われました。

長期の林業不況と価格低迷の中、合併することで、北海道森林組合育成指導方針に定められた「中核森林組合」の認定を受け、経営基盤の強化を図ることになります。

西組合は、来年春の通常総会で、それぞれ合併を承認し、五月に合併申請、七月一日に合併登記を行うこととなっております。

なお、合併後の名称は胆振西部森林組合とし、本所を大滝村に置き、支所を豊浦町に置くことになっていきます。

記

対象地区 室蘭市・登別市・伊達市・虻田町・豊浦町・壮瞥町・洞爺村・大滝村
組合員 六百九十八人
組合加入 一四、七七八ha
面積

▽「ユウキあるクリーン農業推進事業」の実績について

クリーン農業推進の基本となる土づくりのために、緑肥作物を導入する農業者に対し種子購入費に対する助成を行う「ユウキあるクリーン農業推進事業」につきましては、平成十七年度の実績として、洞爺村全域で休閒緑肥三十九戸、後作緑肥四十五戸の利用があり、緑肥導入面積は、百七十三□になっております。

○ 緑肥導入戸数及び面積一覧

戸数・面積	区分	休閒緑肥	後作緑肥	合 計
導入戸数 (戸)		39	45	84
前年戸数 (戸)		33	45	78
前 年 比 (戸)		6	0	6
導入面積 (ha)		63	110.3	173.3
前年面積 (ha)		58.3	118.5	176.8
前 年 比 (ha)		4.7	8.2	3.5

▽大原ホロヌップパークゴルフ場の利用実績について

平成十七年度における大原ホロヌップパークゴルフ場の開設状況につきましては、五月二十一日にオープンしてから村内外の方々に利用していただき、十月三十日まで百六十三日間開設いたしました。利用状況につきましては、利用者名簿に記載して利用された方は村内二百二十人、村外二百二十六人の合計四百四

月別利用者内訳 (単位：人)

区 分	村内利用者	村外利用者	月別合計
5 月	2 1	1 3	3 4
6 月	3 8	1 7	5 5
7 月	1 7	4 2	5 9
8 月	9 1	4 8	1 3 9
9 月	3 4	3 6	7 0
10 月	1 9	7 0	8 9
合 計	2 2 0	2 2 6	4 4 6

十六人でありますが、未記載者も含めて実利用者数は、約七百人程度と推計しております。

▽平成十七年度洞爺村営牧場の利用実績について

平成十七年度洞爺村営牧場の運営につきましては、五月二十三日から受入れを開始し、十月三十一日までの百六十二日間の放牧期間をもって終了いたしました。

今年は春先の天候不良による融雪の遅れなどから、牧草の生育が不順で、例年に比べ成香牧場で約二週間、富丘牧場で約三週間も開牧が遅くなり、このことが入牧延べ頭数の減につながったものと思われま

す。入牧頭数の実績につきましては、次のとおりとなっております。

牛

区分	成香牧場	富丘牧場	合 計	前年比
数				
実 頭 数	84	93	177	6
延 べ 頭 数	9,002	9,391	18,393	3,826

馬

区分	富丘牧場	前年比
数		
実 頭 数	11	2
延 べ 頭 数	354	111

▽平成十七年度水辺の里財田キャンプ場の利用実績について

平成十七年度における水辺の里財田キャンプ場の運営につきましては、四月二十三日よりオープンし、十月三十一日まで百九十二日間の利用期間を持ちまして終了いたしました。

キャンプで利用された方は環境省が整備いたしましたフリーキャンプサイトも含めて延べ一万三千四百二十七人(前

年度比三%増であります。また、スポーツ交流館及び多目的広場の利用者数は、三千五百七人(十月末日)と

月別利用者内訳 (単位：人)

期間	区 分	大 人	小 人	幼 児	ケビン	合 計	備 考
4月23日～4月30日		1 0 0	2 4	2 2	6 7	2 1 3	
5月1日～5月31日		5 1 4	1 2 0	5 3	1 8 9	8 7 6	
6月1日～6月30日		4 5 4	1 5 0	7 4	8 4	7 6 2	
7月1日～7月31日		1, 9 4 4	7 1 9	4 4 2	6 0 9	3, 7 1 4	
8月1日～8月31日		3, 4 1 2	1, 1 5 9	5 9 1	6 6 9	5, 8 3 1	
9月1日～9月30日		9 9 1	2 4 5	1 8 5	2 3 5	1, 6 5 6	
10月1日～10月31日		1 8 6	3 1	1 5	1 4 3	3 7 5	
計		7, 6 0 1	2, 4 4 8	1, 3 8 2	1, 9 9 6	1 3, 4 2 7	運動施設 3, 5 0 7

っております。
なお、洞爺財田自然体験ハ
ウスは、四月より十一月まで
の間に約七千人の来館者があ
りました。

(単位：人)

月別利用者内訳

月	区分	村内者数	村外者数	合 計	利用推定者数	備 考
4月		62	14	76		
5月		385	57	442		(内4団体 133名)
6月		312	32	344		(内5団体 90名)
7月		524	98	22		(内6団体 260名)
8月		204	16	220		(内5団体 130名)
9月		392	70	462		(内9団体 150名)
10月		559	91	650		(内3団体 240名)
11月		92	33	125		
計		2,530	411	2,941	4,500	
昨 年		2,649	729	3,378	5,000	

▽平成十七年度洞爺ふれあい パークの利用実績について

平成十七年度における洞爺
ふれあいパークの運営につき
ましては、四月二十三日より
オープンし、十一月二十八日
の降雪まで二百二十一日間の
利用期間をもちまして終了い
たしました。

この間、利用者名簿に記載
してパークゴルフ場を利用さ
れた方は、村内二千五百三十
人、村外四百十一人でありま
す。総利用者数では、昨年に
比べますと十四%の減となっ
ております。

▽「交通死亡事故ゼロの日七 百日」達成について

平成十七年十二月六日に洞
爺村の交通死亡事故ゼロの日
七百日が達成されましたこと
から、達成の栄誉を称え、北
海道交通安全推進委員会より
洞爺村交通安全村民運動推進
委員会に対して表彰状が贈ら
れました。

このことは、ひとえに地域
住民の皆さんの交通安全に対
する意識の高まりと、深く感
謝するものであります。記録
達成は、ひとつの通過点であ
りますので、今後も地域住民
並びに関係機関等のご協力を
いただきながら交通安全運動
を推進していく所存でありま
す。

▽寄附採納報告について

洞爺温泉病院創設者であり
病院の名誉院長でありました
小池鎮穆氏が、去る十月二十
五日、七十八歳で逝去され
ました。

札幌市において営まれた葬
儀に際しては、参列し、弔意
を表してまいりました。

このたび（十二月十三日）、
ご遺族であり、医療法人社団
洞仁会洞爺温泉病院理事長で
あります中谷玲二氏が役場に
来庁され、「故人の遺志を鑑み、
小学校児童への図書購入のた
めに、寄附をしたい。」との申
し出をいただき、多額の金員
を賜りました。

村では、あらためて故人の
ご遺徳に深く感謝を申し上げ、
「小学校児童の図書購入」のた
めに、活用させていただきた
いと考えております。

▽主要事業の発注状況につい て

洞爺小学校増築工事、村道
洞爺五号線道路改良舗装工事、
洞爺村役場前庭野外彫刻移設
工事、洞爺村総合センターア
スベスト除去工事等主要事業
の発注状況について報告しま
した。

▽虻田町・洞爺村合併協議会 について

第十四回虻田町・洞爺村合
併協議会が十二月十九日、虻
田町で開催されました。
その主な協議事項について
ご報告申し上げます。

(1) 洞爺湖町の町章について
洞爺湖町町章の公募につき
ましては、全国から八百八十

二点の応募があり、二町村の
七会場で実施しました住民投
票を踏まえ、最終選考候補作
品十点の中から合併協議会の
全委員の投票により、洞爺湖
町町章を決定されました。決
定された町章は次のとおりで
す。



「と」の字をモチーフに
『恵みの洞爺湖』と『澄み
きった大空』を圖案化しま
した。
雄大な風景をデザインに
取り入れ、新町の『元氣』
を表現しました。

(2) 特別職の報酬額について

特別職の報酬額につきまし
ては、特別職報酬等検討委員
会の協議結果の報告を受け、
協議の結果、「新町の特別職報
酬等審議会が設置され、新た

な額が算定されるまでの間の暫定措置とし、常勤の特別職及び議会議員の報酬額につきましては、現行の虹田町の条例本則に規定する額の九十五%の額とする。

また、行政委員会（公平委員会を除く）、その他付属機関等の報酬額につきましては、現行の報酬額を比較し高い額のおおむね九十五%の額とする。ただし、選挙長、選挙立会人等の選挙事務に関する報酬額につきましては、国会議員の選挙時の執行経費に関する法律に規定する額とすることが決定されました。

（３）合併協定項目の変更協議について

協定項目の変更につきましては、「介護保険料については、三年間現行のとおりとする」ことの三協定項目が変更されました。

（４）洞爺湖町の組織・機構（第一次原案）について

新町における組織・機構につきましては、これまで専門部会、幹事会において慎重な検討が重ねられ、洞爺湖町の組織・機構（第一次原案）として報告されました。

第一次原案では「新町の事務組織・機構の整備方針」、「本町と総合支所の役割分担に関する基本指針」に基づき、二部十課、一出納室、一総合支所及び一支所体制であります。今後、さらに検討を重ね、二月中には人員配置についても決定されるものと考えております。

（５）指定金融機関選考小委員会の設置について

新町における指定金融機関につきましては、協定項目の調整方針において、「新たに指定金融機関を選定すること」で確認されていることから小委員会を設置し協議することになりました。

教育長行政報告

▽「洞爺子ども議会」の開催について

村づくりに対する中学生の関心を深めてもらうために開催している「明日の洞爺を創る洞爺子ども議会」が十二月五日、役場本会議場において村議会と同じような議事進行で、洞爺中学校の三年生十名により開催されました。

当日は、村民の方の傍聴や報道機関が取材する中、村長から激励の言葉を受けた後、中学生議員から「洞爺村に住んでいる私たちは、洞爺村をもっと住みよい村にするために、私たちに出来ることを考えたり、進んで取り組んでいかなければなりません」と一般質問の趣旨説明を行い、その後、「合併後の住民負担や姉妹町村交流の見通し」や「学校関係」などの質問を8名が行い、わかりやすく具体的な答弁を受けた後、最後に全員が感想を発表し、終了しました。

▽子どもの健全育成サポートシステムについて

近年、少年非行が多様化、深刻化している現状から学校の指導だけでは対処しきれない事態が起きることもありま

す。このような状況を踏まえ、児童生徒の非行・再非行の防止や犯罪被害の未然防止に向け、必要に応じ学校と警察が互いに問題行動に関する情報を交換し、緊密な連携のもとに子どもの健全育成を推進する必要があります。

このための方策として、「子どもの健全育成サポートシステム」を構築することとし、平成十七年十一月二十九日洞爺村教育委員会と札幌方面伊達警察署との間で本サポートシステムの協定を締結いたしました。

このことにより、学校内外における犯罪の未然防止や児童生徒の安全確保のため、警察との緊密な連携が図られることになりました。

▽洞爺村香川獅子舞の村文化財指定について

九月三十日に洞爺村教育委員会にて洞爺村香川獅子舞を村の無形文化財として指定いたしました。

指定については、九月二十九日に洞爺村文化財審議委員会より答申をいただき、その答申を踏まえ洞爺村文化財保護条例に基づき決定をしたものです。

洞爺村香川獅子舞は、明治三十年代に香川県から伝えられ五穀豊穡と家内安全を祈り、神社の祭典などで奉納し活動も活発でした。

しかし、昭和二十三年火災により道具類が焼失し、いつたんは途絶えたものの香川地区開拓百年を迎える平成元年までに何とか復活させようと昭和六十二年に洞爺村香川獅子舞保存会が結成され、現在に至っています。

▽姉妹町村少年交流事業について

十月六日から九日までの三泊四日の日程で、成香小学校鳥井隆校長を団長に引率者三名のもと、村内の小学六年十四名が参加し、姉妹町の財田町へ少年交流事業第十二回「ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー」を実施いたしました。

積み、姉妹町村交流の少年大使の役目を立派に果たし、心身ともに一段とたくましくなつて全員無事帰村しました。

▽洞爺村民文化祭について

洞爺村文化協会の主催によります「世代越え文化はぐくむ明日への飛翔」をテーマに、第四十八回洞爺村民文化祭が洞爺村総合センターで開催されました。

展示・催し部門につきましては、十一月三日より六日までの四日間で四百十点の出品（内一般出品数百二十一点、三百九十一名の入場者がありました。

二十三日のステージ部門には、八十名が出演し百九十三名の来場者がありました。

また、洞爺村教育研究会主催によります、児童・生徒作品展が十月二十九日、三十日と開催され、小中高生の作品約二百八十点が出品され、父母など多くの来場者がありました。

また、近隣の金毘羅宮など名所旧跡の見学や、初めての家庭での二泊の民泊の体験を

専決処分

▽一般会計補正予算

（人事院勧告を参考に特別職及び議会議員の期末手当の十二月支給率を改正し、議会費ならびに給与費の不足によるもの、簡易水道本管の漏水復旧工事に伴うものです。）

▽簡易水道特別会計補正予算

（簡易水道本管の漏水復旧工事に伴うものです。）

一般会計補正予算

▽介護老人福祉施設建設事業に対する地域総合整備資金の融資並びに国保事業の交付金制度の確定に伴う財源調整等に伴うものです。

国民健康保険特別会計補正予算

▽国保事業の制度確定に伴う財源調整及び診療報酬等の増によるものです。

簡易水道特別会計補正予算

▽上下水道料金口座振替事務に係るシステムの変更によるものです。

公共下水道特別会計補正予算

▽下水道事業における汚泥処理量の増加に伴うものです。

決算の認定

▽九月の第三回洞爺村議会定例会において、決算審査特別委員会に付託され継続協議となつていた平成十六年度各会計歳入歳出決算認定については、岸本吉正委員長より「認定すべきもの」との報告を受け認定されました。

洞爺村過疎地域自立促進市町村計画（前期計画）平成17年度～21年度の変更について

▽新たに、国営大原地区直轄かんがい排水事業、並びに

地域情報通信格差是正事業を追加し、同計画の変更を行うものです。

胆振西部衛生組合を組織する地方公共団体の数の減少及び胆振西部衛生組合規約の変更

北海道市町村職員退職手当組合を組織する市町村の数の減少及び北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

北海道市町村総合事務組合を組織する市町村の数の減少及び北海道市町村総合事務組合規約の変更

北海道町村議会議員公務災害補償等組合を組織する団体の数の減少及び北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

北海道市町村備荒資金
組合からの脱退につい
て

西いぶり廃棄物処理広
域連合を組織する地方
公共団体の数の減少及
び西いぶり廃棄物処理
広域連合規約の変更

西胆振広域圏振興協議
会を設ける地方公共団
体の数の減少及び西胆
振広域圏協議会規約の
変更

西胆振広域圏振興協議
会からの脱退について

胆振支庁管内公平委員
会を共同設置する地方
公共団体の数の減少及
び胆振支庁管内公平委
員会規約の変更

胆振支庁管内公平委員
会からの脱退について

▽十二議案については、市町
村合併に伴うものです。

一 般 質 問

次のとおり質問がありまし
た。

▽高橋利典議員

・景観の保全に関し条例の制
定について

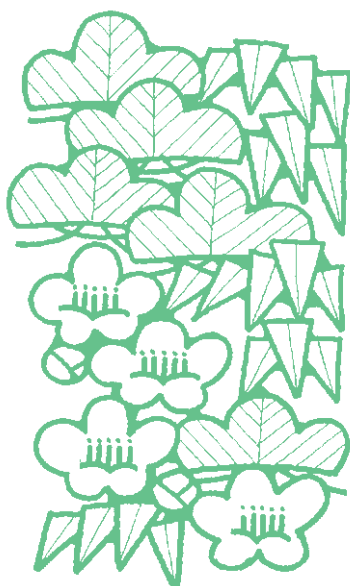
▽毛利六男議員

・洞爺村の街づくりを新町に
どのように引き継ぐのか
・学校統合に係る業務と、と
うや小学校の運営について
・高台三校の跡地利用対応に
ついて

▽五十嵐篤雄

・「安全・安心のむらづくり」
の拡充及び強化について

（質問・答弁の内容について
は今後発行予定の「村議会だ
より」をご覧ください。



コミュニティ助成金でサイレン吹鳴装置を整備

成香自治会において、財団
法人自治総合センターのコミ
ュニティ助成事業の支援を受
け、日中、外で農作業をして
いる農家の皆さんや時計を持
たない子どもたちに時間をお
知らせするサイレン吹鳴装置
を整備しました。

この助成事業は、同センタ
ーが全国自治宝くじ普及広報
事業費として受け入れる宝く
じ受託収入を財源として運営
され、住民のコミュニティ活
動を推進するとともに、宝く
じの普及広報を目的に行われ
ているものです。



木下商店の斜め向い道路沿いに設置されたサイレン吹鳴装置



こんな事業に 取り組んでいます

商工観光課

洞爺村美しい村づくり要綱及び 洞爺村開発指導要綱の制定について

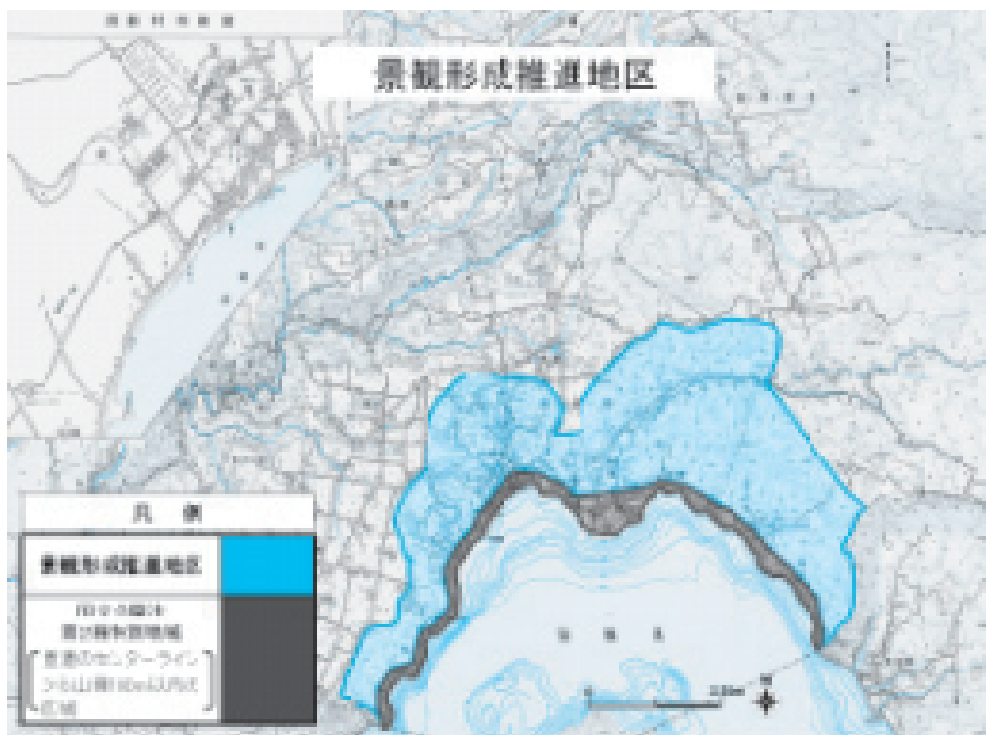
洞爺村では、この恵まれた自然景観を保全するため、洞爺村美しい村づくり要綱及び洞爺村開発指導要綱を制定いたしました。

要綱の策定に当たっては、村内の各地域の10名の方々に検討委員をお願いし、意見をいただきながらまとめてきたもので、村の景観に影響を及ぼす恐れのある建物、開発行為等に対して指導できる体制づくりを目的として制定いたしました。

検討委員会からは、景観保全に関する考え方を地域住民（地権者等）に十分な理解を得るためには推進活動を実践しながらカルデラ斜面の保全を第1に要綱による指導などから段階的に進めることが重要との報告をいただいたところです。

景観に関する要綱では、公園法で定めている湖畔道路のセンターから山側100mまでの区域以外のカルデラ斜面区域を景観推進地区として設定し、景観形成基準を定め、別荘地等を造成する場合の1区画の面積、敷地の緑化面積のほか建物の建ぺい率や色彩等について基準を定めています。また、開発指導要綱では、開発造成面積により設計基準を設け指導を行うこととし、いずれの場合も役場への届出が必要となります。

この2つの要綱については、平成18年1月1日から施行しており、詳細については、全戸に要綱の内容をまとめたものを配布したいと思います。



要綱に関するお問い合わせは、商工観光課（美しい村づくり要綱）又は産業建設課（開発指導要綱）までご連絡をいただきたいと思います。

戸籍事務の電算化が3月18日からスタートします

平成18年3月27日に虻田町との合併が予定されているところですが、すでに戸籍をコンピュータ化している虻田町と足並みをそろえるため、洞爺村でも3月18日から戸籍事務を電算化することとなりました。これにより、合併後は2町どちらの窓口でも戸籍の証明書を交付できるようになります。

○戸籍が電算化されると…

1. 証明書の名称が変わります

戸籍謄本（全員の証明）→戸籍の全部事項証明書
戸籍抄本（個人の証明）→戸籍の一部事項証明書

2. 証明書の様式が変わります

B5版やB4版の縦書きからA4版横書きとなり、これまでは縦書きで難解な文章でしたが、電算化されると項目ごとに記載され、記録の内容が一目でわかるようになります。

3. 今までの戸籍は…

電算化前に使用されていた戸籍は、「平成改製原戸籍」として、永年保存されます。電算化したあとの戸籍では、婚姻や死亡等によりすでに除籍されている方の記載は省略されます。省略された事項の証明書が必要な方は「平成改製原戸籍」をご請求ください。

4. 戸籍の氏・名の文字は正しい文字（正字）で記載されます

今までの戸籍は手書きのものが多く、簡略化したり、書きぐせなどにより漢和辞典に載っていない文字が使われていることがあります。今回の電算化により、そのような文字は常用漢字や人名漢字など一般的に通用している文字（正字）に書き換えて記録されることになります。

該当される方については、2月中旬に文書でお知らせしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

5. 戸籍の附票も電算化されます

戸籍の電算化にともない、住所の異動経過が記載されている「戸籍附票」も電算化されます。

※個人情報の取り扱いについて

戸籍事務をコンピュータ化することにより、個人情報を保護することが一層重要となります。

村では個人情報保護に関する要綱を制定し、万全な管理体制を構築し、職員一人ひとりが厳正に、個人情報の保護を図っています。

今までの戸籍謄本

この謄本は、戸籍の原本と相違ないことを証明する。

平成拾五年四月七日

北海道虻田郡洞爺村長 菊地 勉

職印

本籍		北海道虻田郡洞爺村字洞爺町九六番地	
氏名		洞爺 太郎	
出生	昭和四拾五年九月拾六日	出生	昭和四拾五年九月拾六日
父	洞爺 太郎	父	洞爺 太郎
母	花子	母	花子
妻	花子	妻	花子
子	花子	子	花子
孫	花子	孫	花子
曾孫	花子	曾孫	花子
親類	花子	親類	花子
その他	花子	その他	花子

(1の1) 全部事項証明

本氏 姓名	北海道虻田郡洞爺村字洞爺町96番地 洞爺 太郎
戸籍事項 戸籍編製	【改製日】平成18年3月18日 【改製事由】平成6年法律第51号昭和2条第1項による
戸籍に記載されている者	【名】太郎 【生年月日】昭和42年9月16日 【配偶者区分】夫 【父】洞爺 一郎 【母】洞爺 花子 【続柄】長男
身分事項 出生	【出生日】昭和42年9月16日 【出生地】北海道虻田郡洞爺村 【届出日】昭和42年9月20日 【届出人】父
婚姻	【婚姻日】平成6年1月1日 【配偶者氏名】洞爺 花子 【従前戸籍】北海道虻田郡洞爺村字洞爺町132番地 洞爺 一郎
戸籍に記載されている者	【名】花子 【生年月日】昭和45年12月8日 【配偶者区分】妻 【父】洞爺 太郎 【母】洞爺 由紀 【続柄】長女
身分事項 出生	【出生日】昭和45年12月8日 【出生地】北海道虻田郡洞爺村 【届出日】昭和45年12月15日 【届出人】父
婚姻	【婚姻日】平成6年1月1日 【配偶者氏名】洞爺 太郎 【従前戸籍】北海道虻田郡洞爺村字洞爺町106番地 洞爺 太郎
以下余白	

発行番号 00000001

これは、戸籍に記載されている事項の全部を証明した書面である。

平成18年3月18日

北海道虻田郡洞爺村長 菊地 勉

職印

新しい全部事項証明書

合併に向けて全力で調整を進める

村政懇談会

十二月五日から九日までの日程で、地区別村政懇談会が六会場で開催されました。

各会場において、はじめに

村長より、今年度実施した事業や今後実施する予定の事業について報告を行ない、その中で、洞爺市街地区間の改良について、交通安全設備整備事業として市街地湖側の歩道整備が来年度着工の予定、また道道洞爺蛇田線についても線形調査、湖畔の樹木調査等が実施され、平成十八年度予定の青淵付近の崖等の地質調査は、繰り上げて本年度実施されました。また、国土交通省所管のまちづくり交付金事業の採択がほぼ決定し、事業費六億五千万円で、平成十八年度から五年間の事業として行われる予定で、合併しましても今後の洞爺地区の活性化が期待できる。

また、残された期間に、さ

らに洞爺地区の振興を図るため、蛇田町との協議、関係省庁への要望等を進める旨の報告をいたしました。

その後、各担当課長より、国際彫刻ビエンナーレ展覧会姉妹町村盟約締結三十周年記念交流事業、年末年始のごみ等収集体制、道路除雪路線、洞爺水の駅周辺地区まちづくり交付金事業、小学校統合の経過及び校舎増改築工事、蛇田町・洞爺村合併協議会の取り組み状況について、詳しい説明を行いました。

洞爺水の駅周辺地区まちづくり交付金事業では、現役場庁舎を芸術文化交流センターとして芸術作品を展示したり、芸術体験を通して交流できる施設とする事業や旧信用金庫跡地を商店街の地域振興を図る場として整備し、農産品の販売や屋台広場などのイベントで農商連携を強化し、都市

大原・富丘地区の村政懇談会



住民との交流の場とする事業災害に強い街並みの形成と公共施設へのアクセスを向上させる中心市街地の回遊性を高める道路整備などを行うと説明しました。

続いて、行われた懇談では各地区から、次のような趣旨の要望や意見をいただきましたので、その概略をお知らせします。

【財田・川東・岩屋自治会】

(質問) 役場庁舎周辺の整備で三樹の木は、現在民地と思うが村の財産として取得するのか。旧信金跡地の利用で、現在の水の駅での販売と競合しないか。

(答) 旧三樹園前庭部分を取得し、役場の駐車場と老三樹を一体的に整備する予定です。旧三樹園と役場の間の道道は道から移管されます。

商工会と食べ物長屋ができないか協議しています。運ぶ人、売る人など、それぞれ役割を分けて全村的組織を作りたい。皆が何がしかの収入を得られれば地域の活性化につながると思う。

(質問) 合併により住所が変わるが、変更手続きをしなければならぬか。

(答) 土地登記簿など自然に直るもの、当分見なし規定が適用となるものや申請に係る変更しなければならぬものがあるため、国・道・民間に分け一覧表を作り、お知らせします。

曙自治会でも同じような質

問がありました。

(質問) ブランド加工センターは、個人的に使用できるか。

(答) 個人で申請して時間調整できれば使用できます。

(質問) いこいの家の料金や送迎バスの利用についての見通しを教えてください。

(答) 蛇田町は有料(百円)で七十歳以上が対象と洞爺村と形態が違い、現在調整中まだまだ結論は出ていません。

曙自治会でも同じような質問がありました。

(質問) 村政懇談会のあり方や支所長の権限はどうなるか。

(答) 新しい首長が決めることだが、区域が大きくなり、自治会の見直しも検討される事項と予想されます。支所長の権限は部長級と考えており簡易なもの、継続事業などは実施できる権限を与えられると思っています。

【大原・富丘自治会】

(質問) 村道大原富丘線舗装工事は平成十八年全線工事終了予定とのこと、引き続き維持

改良をお願いしたい。

(答) 四百三十m実施しており、来年度四百m実施予定です。

(質問) 旧マザーホテルは、景観上好ましくなく、防犯・安全管理上の対策も必要でないか。

(答) 解体等について協議してきたが、個人の財産であり建物と土地の所有者が異なることから、問題の解決に当たって村の権限が及ばない状況です。

また、防犯上、伊達警察署に巡回をお願いしています。

今後も根気強く、関係者に要請をしていきます。

財田・川東・岩屋・曙自治会でも同様の質問がありました。

(質問) 旧ごみ焼却処理施設及び土地の今後の利用計画を伺いたい。

(答) 室蘭市の施設ができ、解体する予定であったが、四千五百万円の費用がかかり、全国六団体が解体費用への補助を要望しており、利用計画

が立てられない状況です。

(質問) 基幹産業の農業の基本となる土づくりのためのさらなる助成と農地の排水性が悪化しており暗渠及びバンブリーカー等の高率補助事業を実施できないか。

(答) 受益戸数や面積の条件があり、農協等と調整したい。

(質問) 小学校の跡地利用について伺いたい。最低今後の維持管理をお願いしたい。

(答) 高台三自治会との懇談会、役場ワーキンググループ

での検討、インターネットホームページでアイデア募集しているが、具体的な見通し立っていない状況です。

過去に宿泊施設、社会福祉施設など誘致したが、負の遺産を引き継いでいる。あせらず、地域の活性化につながり

長続きするものを考えなければならぬと思っています。

※財田・川東・岩屋・香川・成香自治会で同様の質問がありました。

【曙自治会】

(質問) 曙獅子舞に現在、五万円助成いただいているが、新町になっても助成いただけるか。

(答) 新町になっても対象になるよう調整されています。

(質問) 洞爺蛇田線について申し合わせ事項として新町に引き継ぎをしてほしい。

(答) 今年、北海道で線形調査、湖畔の樹木調査してもらっている。環境省でも全線の環境調査をやっていたらいい。

【第一〇六、美沢西・東、緑沢自治会】

(質問) 学校統合による児童の心の問題、いじめの問題について、どのように考えているか。

(答) 最重要事項として、いじめ等のないよう心がけて進めていきます。

(質問) 洞爺水の駅周辺地区まちづくり交付金事業の公営住宅整備事業は、六町内の住宅のことか。

(答) 関連事業として、美沢

団地の建替え工事を二年ごとに行っていきます。

(質問) 村の事業のビエンナーシ、財田町交流、英国ボランティア青年などはどうなるのか。

(答) この三点の事業は、合併後も継続となっています。

(質問) 現在の災害などが多い世の中、私道だからというのではなく、高齢化が進む中道路は大切でなくてはならないものなので、村として補助制度などを考えてほしい。

(答) 道の方にも相談しているのですが、もう少し待ってほしい。

(質問) 村に救急車がない中で、年々救急件数も増えてきている。救急車がくるまで二十分以上(冬は三十分以上)かかる。心臓疾患、脳疾患などは室蘭に搬送になるが、村で救急車を呼んだ場合、助かる見込みが低くなる。

(答) 医療福祉に問題はあるが、三人は救急体制が必要であり、三交代で九人の救急専門職が必要となり、西胆振消

防として村のこのエリアは壮瞥、このエリアは温泉と、できる限りの体制を取っています。救急車が配備されている地域でも、距離が離れていることと同様な場所は他にもある。確かに人命は大切であるが、このことも理解していただきたい。

【香川自治会】

(質問) 旧不動坂について、村道になったときはどうなるか。

(答) 安全のため、今のところ村道となっても通行止めとする予定です。

(質問) 街灯(道路照明)について

(答) 交差点に二基設置しました。

(質問) 道路の改修をお願いしたい。また、路肩の草の根についてどうにかならないか。

(答) 村道土場線、留寿都線について検討していきます。路肩の草の根は、調査をして対応したい。道道、国道は年一回の草刈となっているが、どうしても不便になるところ

は、道、国に要望していきま
す。

(質問) かどやの跡地に「みが
散乱し農地に入ってきている。

(答) 早急に対応します。

(質問) 学校の跡地利用が決ま
るまでの環境整備及び体育館
は使用できるか。

(答) 公共施設として外回り
の草刈などは村で行います。
体育館は夏場は大丈夫と思っ
が、冬、夜などは照明、暖房
を使用するため、難しいと思
います。

【成香自治会】

(質問) 窓口業務は合併後、虻
田まで行かないといけないか。

(答) 日常的なことは、総合
支所で行えるようにしたいた
め、今支所の規模を最終調整
しています。

(質問) 村立高校はどうなるか。

(答) 町立高校として存続し
ていきます。

(質問) 高台保育所の場所など
の話しあいに今後入所予定の
親も、呼んでほしい。

(答) 今後入所予定の子ども

さんのいるお母さんなど父兄
にご案内します。

(質問) 緑肥の助成事業は今後
どうなるか。

(答) 虻田町と今後も続けよ
うと調整を図っています。

(質問) 自治会で要望している
が道路にくぼんだ箇所がある。

(答) すぐ修理するよう手配
しています。

(質問) サイレンを付けてくれ
るということだが、早急に消
防署と連動して、防災のサイ
レンを重視してもらえると地
域の災害を軽減にしたいと考
えているがどうか。

(答) 大変申し訳ないが、虻
田と連動させないといけない
が、現在アナログ方式となっ
ており、三年くらいでデジタ
ル方式に変えていく必要があ
ります。合併後、防災計画を
作りデジタル方式に変えて防
災と連動させる考え方の中で、
整備したい。

住みよいふるさとをめざして

洞爺子ども議会

十二月五日、洞爺村役場に
おいて「明日の洞爺村を創る
洞爺子ども議会」が行われま
した。

子ども議会は、洞爺村の姿
を見つめ、理想の姿を提案す
ることにより、村民としての
自覚を持つようと、平成十三年
から行われており、今回が五
回目となります。

当日、現職の村議会議員も
見守る中、洞爺中学校の三年
生十名が議長、議員などを分
担し、村からは、菊池村長を
はじめ、助役、教育長、各担
当課長が答弁しました。

冒頭、互いの自己紹介や菊
池村長から「堂々と意見を述
べていただきたい」との激励
を受けて、本物の議会に則り
議長役の富田翔くんの進行で
議事が進められました。

続いて、今村紗耶加議員が
「洞爺村は合併して洞爺湖町と
なるが、住みよい町にするた

めにどうすればいいのか、私
たちにどんなことができるの
かをみんなで話し合っていけ
たらいいと思います」と質問
の趣旨説明を行い、次のとお
り一般質問が行われました。

【西岡寛憲議員】

(質問) 平成十八年三月二十七
日に虻田町と洞爺村は合併し
ますが、保育料や水道料金な
どは、函館市などは安くなっ
てきたようですが、今後の住
民負担の見通しや合併特例償
の使い道や町づくりをどのよ
うに行うか教えてください。

(答) 保育料については、所得
階層により保育料が定められ
ており、洞爺村も虻田町も国
の基準を下回った料金となっ
ていますが、新町においては、
安い虻田町の保育料に統一す
ることで現在調整中です。

また、水道料については、
取水方法や浄化施設の違いか

ら洞爺村が安く、虻田町が高
い状況にあります。両町村で
は施設・設備の維持・管理に
係る経費が大きく違うことか
ら水道料金は統一せず、合併
後も現在のままの料金としま
した。

このほか、負担料金が虻田
町より高いものと安いものが
ありますが、数年間で段階的
に調整する激変緩和措置とい
う方法などで、住民の公平な
負担に努めることにしました。

合併特例償の使い道と町づ
くりについては、洞爺村と虻
田町が合併した場合の新町の
将来ビジョンを明らかにする
ため、町づくり計画(新町建
設計画)を策定しました。

この計画は、洞爺村と虻田
町のもつ自然や文化・歴史な
どの特色を生かし、より良い
町をみんなで創って行こうと
する基本計画です。

この基本計画に基づき、道
路の整備や公営住宅の建設、
公園の整備など、新町として
の基盤づくりと町づくりが早
急に進められるよう国からの

支援策が合併特例債です。
合併特例債は、国からの借り入れ金で、平成十八年三月末日までに合併する市町村に限った特例措置ですが、この制度を活用するかどうかは、今後の新町における課題となります。

〔天畑卓也議員〕

〔質問〕洞爺村と虻田町が合併した場合、一般職の職員はどうなるのでしょうか。



今村議員が一般質問の趣旨説明を行う

〔答〕洞爺村と虻田町の合併により誕生する洞爺湖町役場は、現虻田町役場とし、洞爺村役場は、洞爺総合支所になり、規模は多少縮小されますが、これまでどおりの業務を行います。

これらのことから、洞爺村と虻田町の現在の職員は、全員洞爺湖町の職員として引き継がれ、洞爺湖町役場又は、洞爺総合支所に勤務することになります。

〔毛利瀬那議員〕

〔質問〕合併後の高台小学校の敷地の跡地利用については、計画は決まっているのでしょうか。私たちは総合的な学習で高台の小学校をレストランにするという案が出ました。校舎は洞爺小学校の校舎を利用しますが、バス通学はどのように運行していくのでしょうか。

また、洞爺高校は今後どのようになるのか教えてください。

〔答〕来年四月からの小学校統

合に伴う高台小学校の跡地利用について教育委員会として、高台地域での意見交換会の開催、村職員のワーキンググループでの検討、インターネットを活用したホームページの開設によりアイデアを募集する取り組みを行っています。最終的な方向性は、決まっていません。

レストランという案もあるということですし、幅広い案を参考に決定したいので、これからお知らせいただきたいと思っています。

高台地区から小学生三十六名、中学生十七名の五十三名が通学し、現在二台の二十九人乗りのバスでは乗りきれないため、来年三月に一台を四十五人乗りのバスに変更します。

多くの小学生がいつしよに利用することになるため、助け合い、譲り合って乗ってほしいと思います。

洞爺高校については、村立から町立の高校に変わりますが、現在の名称のまま存続す

ることになります。

よりよい教育に取り組んで行きたいと思っています。

〔南出涼太議員〕

〔質問〕今年の八月に宮城県で地震が起こり、さらに十月にはパキスタンで多くの死者を出した地震がありました。

今、避難所として使われることとなっている高台の小学校の扱いはどうなるのでしょうか。

また、避難所での緊急援助物資などの備蓄はどうなっているのでしょうか。

〔答〕本村においてもいつ起きるか分からない災害に備え、常に西胆振消防組合、伊達警察署、自衛隊などと連絡を密にし、災害等に対応しているところです。

閉校後の高台三校の活用については、現在地域の方々と役場職員などにより、今後どのように活用したらよいか検討していますが、まだ具体的な活用方法は決まっています。

したがって、当面は新町において管理しなければならぬことから、災害時には避難所として活用したいと思っています。

また、洞爺地区の避難所は学校のほかに総合センターをはじめ、各地域にある会館など、十四カ所を避難所としていることから、学校にするか会館にするかは、災害の状況に合わせ、対応したいと思っています。

次に、避難所における緊急物資の備蓄についてですが、平成十二年の有珠山噴火災害を教訓として、毛布五百枚、洗濯機五台、その他スコップ、ヘルメット、懐中電灯などを備蓄しています。

また、食糧、水、医薬品などについては、備蓄していませんが、洞爺地区の商店、農協などから調達することにしており、必要な量が揃わない場合は、北海道に要請し、支給を受けることになっています。

飲料水については、新町に

において、確保できない場合は、自衛隊の支援により、近隣の市町村から補給することになっています。

【稲実亜利紗議員】

【質問】洞爺村では香川県財田町と交流活動を行っています。財田町側も市町村合併を行います。相互の交流について、どのような形で行われるのでしょうか。今年フレンドリーツアーで来た財田町の話では、今年で終わりと聞いたのですが、実際は洞爺村としてはどう考えているのでしょうか。

【答】洞爺村と財田町は、昭和五十年四月一日、開拓に入植された「祖先を同じくする縁故を基に」姉妹町村の盟約を結び、今年で三十周年の記念すべき年を迎えました。

三十周年を記念し、企画・実施しました記念事業では、多くの村民が財田町を訪問し、財田町からも多数の町民が来村するなど、互いに交流を深

めてきました。

財田町は、来年一月一日に三豊市に、洞爺村も来年三月二十七日に洞爺湖町に変わりますが、十月二十三日財田町で開催された姉妹町村盟約締結三十周年記念式典において、財田町長と洞爺村長との間で「これまでの交流によって築かれた「友好の絆」は、お互いに合併を乗り越え、新洞爺湖町と新三豊市においても良好な関係を築こう」と誓い合い、姉妹町については新町に引き継ぐ約束をしました。

現段階では、今後の交流の形は決まっていますが、新しい市長、新しい町長が決まっ

ってから新たな交流がスタートできるよう協議して行きたいと考えています。フレンドリーツアーについては、未来を担う子どもたちが友情を深め、たくましく育つてほしいとの願いを込め、平成六年から実施し十二回を数えており、本村から二百二十六名が財田町での貴重な体験交流を行ってきました。

合併後については、とうや小学校に限定してフレンドリーツアーを実施したいと考えていますが、新三豊市においても方針が決定しておらず、決まるまでに時間がかかると思います。

【坂東直也議員】

【質問】財田体育館などの施設は、洞爺村民は無料・低料金で利用することができ、合併後もこの制度を利用することが出来るのですか。

また、虹田町の人たちも使用料は無料、低料金になるのでしょうか。

スポーツ施設やキャンプ場の使用料は、今後財政難などで高くなるのでしょうか。

【答】現在、虹田町と洞爺村とで合併後の新町における制度や使用料などについて協議を行っています。その中で財田体育館やキャンプ場などについては、当分の間、現状のままで運営することになっています。

このことから、新洞爺湖町

の児童・生徒については、スポーツ交流館及び運動広場の使用料、キャンプ場の入場料が減免され、今の洞爺村の児童・生徒と同じになります。

また、大人の方々についても、スポーツ交流館の使用料については、五割減免され半額になります。

また、使用料については、今後のキャンプ場施設の利用状況や財政状況などを見据えながら、使用料を高くするかもしれないかを決めることとなりますが、使用料を高くすることによって、利用者が減少することもあります。出来るだけ現状の使用料を維持するために、各施設での体験メニューを増やしたり、インターネッ

トホームページやダイレク

したいと思います。

【尾形めぐみ議員】

【質問】日本は世界に例を見ない速さで急激に少子・高齢化社会が進行しています。二〇五〇年には日本の総人口は四千九百万人にまで減少すると

の推計もありました。この洞爺村でも少子高齢化が進んでいます。高齢者で一人暮らしの方も増えてきていると聞きました。私の祖父もダイケアサービスに通っていますが、もっと高齢者が気軽に運動や交流できる施設を考えていくべきだと考えます。そのような機会をつくることで、健康を維持し趣味や経験を生かした社会参加も増えていくと思います。そのことに対して、交流施設などの対策は考えていますか。

【答】少子・高齢化は先進国でもある欧米でも深刻な問題で、中でも日本はめまぐるしく進んでいます。

本村の人口は、平成七年二千六十七人、平成十二年二千

七十六人、平成十七年千九百七十四人で、約5%減少しています。

高齢者（六十五歳以上）人口は、平成七年四百六十六人（二一・五%）、平成十二年四百八十九人（二三・五%）、平成一七年五百三十八人（二七・三%）と高齢化が進んでいます。

十五歳以下人口は、平成七年三百三十八人（一六・三%）、平成十二年二百八十一人（一三・五%）、平成十七年二百一十三人（一一・三%）と少子化も進んでいます。

このように、少子・高齢化が進む中で、高齢者で一人暮らしの世帯が増え、現在六十五歳以上で八十三世帯、内七十五歳以上は五十四世帯です。村では高齢者の一人暮らしの方々を中心に、生活に不便を感じている方の手伝いをするホームヘルプ事業を実施しており、現在十四名の方が利用されています。

また、デイサービス事業は日常生活で人と交流する機会

の少ない高齢者の方々を中心に、ふれ愛センターに集まりゲームや散歩、入浴などのサービスを受ける事業で、現在二十五名の方が利用されています。

ホームヘルプ事業やデイサービス事業は介護保険が認定された方々が利用される事業ですが、認定されていない方も利用できる「生きたいデイサービス」も実施されており気軽に運動や趣味を楽しんでいます。

次に、高齢者が自由に交流できる施設として、平成十二年度に生きたい交流センターを開設し、カラオケサークルや囲碁など趣味の仲間の方々に利用されています。

その他に、高齢者の方の特技を生かした「生き生き事業」を実施しており、先日文化祭で発表された切絵の講座などがあります。

健康維持の事業としては、虻田町と合同で「中島ウォーク」や「史跡めぐりウォーク」などを実施しています。高齢

者も参加しています。

今後とも、生きたい交流センターを多くの方に利用いただけるよう趣味と特技を生かした講座を実施するとともに高齢者に合った軽スポーツ教室なども開催する予定です。

中学生の皆さんにも高齢者の皆さんとの交流を課題とした総合的な学習などで、気軽に施設を利用いただくことを期待します。

【和泉まりも議員】

【質問】洞爺村には、シソ、アスパラなどたくさんさんの農業特産物があるが、洞爺湖町になつても特産物として全国にアピールし、農業を活性化させる考えはありますか。

洞爺村の主な産業は農業ですが、農業をさらに活性化させるための具体的な政策を教えてください。

【答】洞爺村には、シソ、アスパラをはじめとして、全道全国に誇れるセルリー、長いも、ニンジンなどの農業特産物、それらを加工したシソジュー

スや香り漬けなどの加工品があり、テレビや新聞などのマスコミやインターネットを利用するなど、機会あるごとに全道・全国にPRをしてきています。

町村合併により、洞爺湖町になりましたが、農業が重要な産業であることには変わりありません。合併後は、現虻田町の漁業と観光、そして現洞爺村の農業が結びつくことにより、全国的に観光地として有名なことをいかして、洞爺湖を訪れる観光客にPRをしていくなど、合併によるメリットを活用しながら、あらゆる機会をとらえて、農業特産物の良さをPRしていきます。

現在の農業は、農畜産物の輸入自由化や市場開放など国際化が進み、農畜産物価格の低迷など、非常に厳しい環境となっています。

また、地球規模での環境問題や食の安全性に対する関心が高まる中、国民全体が農業に対して、農薬や化学肥料の

使用をできるだけ減らした、より安全で高品質な農産物の供給を求める傾向が強まっていることから、村では、農薬や化学肥料の少ないクリーンな農業技術で、安心で美味しい農産物を消費者に提供するため「クリーン農業」を推進しています。そのためには、農業の基本となる「土づくり」を行わなければなりません。「土づくり」のために村では、えん麦、ひまわり、はぜり草等を植え、それを堆肥として畑に鋤込む緑肥事業に補助を行い、元気な土づくり、安全で元気な作物が収穫できるよう今後クリーン農業を推進し新町になつても活力ある農業の推進を図ります。

さよなら2005

洞爺村ニュース日誌

皆さんの2005年は、どのような思い出を残したでしょう。

昨年は、駒大苫小牧高校の夏の甲子園連覇、知床の世界遺産登録、紀宮様ご成婚など明るいニュースもありましたが、国内では、過去に例のない脱線事故、子どもたちが犠牲となる事件などが発生し、世界的には、テロ、ハリケーンや大地震などの暗いニュースも多い一年ではなかったでしょうか。

今年は、町村合併は虻田町との合併も控えています。洞爺村最後の年になりますが、皆さんにとって良い年となるよう願っています。

洞爺村の昨年一年間を振り返ってみました。

1月

▼7日 洞爺消防出初式が行われる。

▼9日 洞爺村成人式を総合センターで行う。

▼26日 スピードスケート元オリンピック代表の堀井さんの講演会が総合センターで行われる。

▼31日～2月4日 町村合併住民説明会が開催される。

2月

▼2日 つけものフォーラムの進化版、洞爺村美味い物コンテストが総合センターで行われる。

▼13日 第二十二回とうや冬まつりが、洞爺水の駅ふれあい中央広場で行われる。

▼15日 安心・安全の村づくり事業、民間主導の活動が評価され、伊達警察署署長より感謝状が贈呈される。

▼28日 豊浦町の住民投票の結果を受け、町村合併

の枠組みを豊浦・虻田・洞爺より虻田・洞爺の二町村に変更。

3月

▼7日 町村合併へ向け住民意思確認調査結果（賛成71・39%、反対28・20%）を発表する。

▼8日 第一回洞爺村議会定例会が開かれ、平成十七年度予算が前年比6・6%減の緊縮型予算など原案どおり可決される。

▼18日 香川小、大原小で最後の卒業式が行われる。

▼28日 虻田町、洞爺村の合併協定調印式が虻田町役場で行われる。

▼29日 第二回洞爺村議会臨時会が開かれ、合併関連議案など原案どおり可決される。

4月

▼1日 洞爺村個人情報保護条例が施行される。洞爺駐在所所長に玉手さん着任。

▼4日 学童保育「とうや児童クラブ」がスタートする。

▼7日 各小学校教育最後の入学式が行われる。

▼15日 新企画五十人委員会を発足させ、洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005の準備が始まる。

▼22日 春の自治会長会議が総合センターで行われる。

▼25日 伊達信用金庫洞爺出張所が洞爺水の駅に移転する。

5月

▼10日 洞爺村文化・スポーツ表彰式が総合センターで開かれ、六人が文化奨励賞、文化振興賞を受賞。

▼24日 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005の一次審査会が東京で行われ、応募総数六十二カ国、六百点から、二十カ国、六十点が選ばれた。

6月

▼23日 第二回洞爺村議会定例会が開かれ、来年度から「とつや小学校」に統合。

▼25日 姉妹町村盟約三十周年記念事業として財田町の皆さん四十九名が訪れる。

▼26日 第三十回洞爺産業まつりが中央公園で行われる。

7月

▼26日 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005の二次審査会が総合センターで行われ、各賞が選ばれる。

▼29日 8月1日 第十二回ふるさとフレンドリーツアーで、財田町より小学六年生三十二名と引率者三名、総勢三十五名が来村する。

▼30日 姉妹町村盟約三十周年記念事業として、近藤町長はじめ財田町の皆さん四十九名が訪れる。

る。洞爺夏まつりが開催される。

▼31日 第七回とつやカヌーフェスティバルが洞爺水の駅前湖畔で開かれる。

▼31日・8月2日 第十四次英国ボランティア青年として来村していた、トム・ヒューズさん、カイル・ウィッティントンさんが帰国する。

8月

▼2日～3日、21日～22日 大雨により村内で崖くずれ、土砂流出、路肩決壊、農業被害を受ける。

▼7日 第二十一回とつや子ども共和国が総合センター駐車場で開かれる。

▼27日 第十六回村民ゲートボール大会が財田スポーツ交流館で開かれる。

▼29日 洞爺村長寿を祝う会が総合センターで開かれる。

9月

▼11日 第四十四回衆議院議員選挙、第二十回最高裁判所裁判官国民審査の投票が行われる。

▼13日 第十五次英国ボランティア青年として、ライアン・マックエルフオンさん、ステファン・ハンナさんが来村する。

▼23日 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005が総合センターを会場に開かれる。

▼30日 香川獅子舞が洞爺村無形文化財に指定される。

10月

▼4日～8日 姉妹町村盟約三十周年記念事業として、曙獅子舞とちようさ（太鼓台）一行二十八名が財田町を訪問し、鉾八幡宮秋期例大祭に奉納する。

▼6日～9日 第十二回ふるさと・ふれあい・フレ

ンドリーツアーで本村の六年生十四名と引率者三名が財田町を訪問する。

▼22日～23日 村長、議会議員、写真集団洞爺、むらびと踊る社中、宮武社中ら一行三十一名が財田町訪問し、文化祭姉妹町村盟約三十周年記念式典に出席する。

▼23日 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005展覧会、来場者四千人を突破し閉幕。

▼3日 洞爺村表彰式が役場で行われる。

11月

▼3日～6日 第四十八回洞爺村文化祭が総合センターで開かれる。

▼12日～15日 姉妹町村盟約三十周年記念事業として、四十五名が財田町を訪問する。

▼22日 秋の自治会長会議がふれ愛センターで開かれる。

▼23日 第四十八回洞爺村文化祭芸能発表会が総合

センターで開かれる。

12月

▼5日 第五回子ども議会が役場で行われる。

▼5日～9日 村政懇談会が六会場で行われる。

虻田町フロアカーリング大会

十二月四日、虻田町体育館で行われたフロアカーリング大会に、今年は洞爺村からも三チームが参加しました。今年 は来年の合併を見据え、虻田町と洞爺村の社会教育事業にお互い参加し合っています。洞爺村チームは毎週土曜日にフロアカーリングを楽しま



ターゲットに向けフロッカーを送球する

れているサークルの方々を中心に参加し、虻田の方々と熱戦を展開しましたが、惜しくも予選リーグで敗戦。決勝トーナメント進出は虻田勢に譲りました。

参加者の方の感想は、「虻田の体育館はカーリングが滑りやすく、力の加減が難しかったです。」「虻田の方々に花を持たせられて良かった」等の感想が聞かれました。密かに来年の雪辱を誓っている言葉に感じられました。

バイオリンミニコンサート

洞爺水の駅

十二月七日、洞爺水の駅でバイオリンミニコンサートが開かれました。このコンサートは、矢野克典さんの十年来の友人である韓国の方との縁で、教育委員会の協力のもと実現したもので、バイオリン奏者は釜山シ



リム・ビョンウォンさんの華麗な演奏

ンフォニーオーケストラの指揮者である、オー・チョンギンさん、同オーケストラの音楽監督である、リム・ビョンウォンさん。コンサートでは、CD伴奏に合わせ、クラシック、歌謡曲、韓国ドラマの主題歌などバラエティにとんだ内容が演奏され、訪れた皆さん約八十人は、バイオリンの繊細な音色に酔っていました。

デイサービス利用者に 遊戯や歌を披露

洞爺保育所児

十二月八日、洞爺保育所で、保育所児の踊りや歌を披露し喜んでもらいたいと、洞爺村のデイサービスを利用しているお年寄りの皆さんを招待しました。

午前十時、関係者とともに保育所を訪れたデイサービスを利用する皆さんは、保育所児から大きな声であいさつされたり、保育所児たちの可愛



保育所児の元気な踊りや歌を楽しむ

らしい踊りや元気のよい歌などを見聞きし、写真を撮ったり、盛んに拍手を送っていました。

最後に、感謝の気持ちを込めて、子どもたちひとりひとりと握手し抱き合いながらプレゼントを手渡し、互いに笑顔で交流を深めました。



お菓子作りに児童を招待

洞爺高校生

十二月十四日、午後四時ごろから洞爺高校（望月憲夫校長）では、放課後のひとときを、学童保育に通うとうや児童クラブの子どもたち六人を初めて高校に招き、同校三年の生徒たちとの交流を深めました。

同校三年の四人の生徒は、課題研究で「学童保育」をテ



高校生といっしょにクッキーを作る子どもたち

マに学習しており、この日は子ども好きな生徒や先生たちに手伝ってもらい、子どもたちから要望のあったクッキーを自ら工夫して準備したレシピをもとに作りました。

生徒たちは、すでに数回お菓子を持って学童保育所を訪れているため互いに顔見知りで、子どもたちは生徒に教えてもらいながら、楽しくクッキーを作り、いろいろな形に焼き上がったおいしいクッキーに歓声を上げて喜んでいました。

国際交流協会クリスマス会開く

平成十七年十二月十八日

洞爺村国際交流協会（五十嵐優子会長）では、日頃から交流のある四十名ほどの皆さんが集い、英国ボランティア青年のライアンさんとステファンさんを囲み、一足早いクリスマス会を行い、楽しいひとときを過ごしました。

午後六時、会長の「楽しいクリスマス会にしましょう」



会員が持ち寄った料理をバイキング方式で楽しむ

との挨拶の後、サンタに扮した会員からボランティアの二人にプレゼントがあり、二人から東京から来村したボランティア青年の紹介がありました。

英会話教室や保育所、学校等で交流している会員や親子連れの皆さんは、それぞれが持ち寄った自慢の手作り料理を食べたり、みんなでクリスマスソングを歌い、ゲームで景品を当てるなど、一夜を楽しんでいました。

ライアンさん・ステファンさんに 剣道防具のプレゼント

洞爺温泉病院

十二月十六日、英国ボランティア青年として来村中の、ライアン・マックエルフォンさん、ステファン・ハンナさんに洞爺温泉病院より、剣道防具一式が贈られました。

同院からの剣道防具プレゼントは、毎年恒例となっており、中谷玲二理事長より「いつもボランティアありがとうございます」



贈られた剣道防具を身につけ喜ぶ二人と中谷理事長

ございます。患者さんは、二人に合える金曜日を楽しみにしています。この防具をつけ、剣道を通して武士道を学んでいただきたい。」とあいさつし、二人に剣道防具を渡しました。

二人は、防具を身につけ、流暢な日本語で「病院の皆さんと働けることを、とてもうれしい思います。」「今、柔道をやっていますが痛いのでこの防具をつけ、柔道をやりたいと思います(冗談です)。来年からはこの防具をつけ剣道をやります。来年からは病気怪我などをしないようにがんばります。」と冗談を交えながら、お礼の言葉を述べていました。

また、防具の垂には、「雷安」「素帝文」と二人が選んだ漢字で、名前が記されていました。

親子で絵本を楽しむ

たんぽぽがクリスマス会

十二月十七日、午後一時三十分から総合センター図書室において、読み聞かせグループ「たんぽぽの会」による読み聞かせがクリスマス会として行われました。

当日、雪で荒れ模様の天気となりましたが、保育所に通う幼児や母親など二十人ほどが集まり、会員の皆さんによ



会員の読む絵本に注目する子どもたち

る絵本の読み聞かせや紙芝居などに目と耳を傾けていました。

また、子どもたちは、会員の皆さんの手作りのプレゼントやお菓子をもらったり、ある言葉の入った絵本を探すゲームなどで楽しいひとときを過ごしていました。

成績

よくがんばりました

平成十七年度

村民ミニバレーボール大会

十二月五日、六日の二日間 にわたり、洞爺中学校体育館で村民ミニバレーボール大会が行われました。

参加チームは村内十四チーム、虻田町一チームの総勢百名で、予選リーグ、決勝トーナメントと熱戦を繰り広げました。

結果は次のとおりです。

▽優勝 2B JAPAN

(眞屋 賢介、村上 友和、大楽 泰生、毛利 実寿、菅原 直美、佐藤さやか、眞屋由季子、酒井亜矢子)

▽準優勝 悪代官

(岡村 篤実、伊藤 健、瀬木 務、高丸 勲、岡村 里美、横山みどり、中井みずえ、奥寺 真生)

▽三位 れもんや

(上里 智弘、金子 貴寿、富田まゆみ、久保田礼子、上里 秀和、黄金崎順二)



見事優勝した「2B JAPAN」の皆さん

寄附

ありがとうございます

故人の遺志による寄附
洞爺温泉病院理事長

洞爺温泉病院を創設され名誉院長でありました小池鎮穆氏が、去る十月二十五日、七十八歳の生涯を閉じられました。

十二月十三日、ご遺族であり、現在、医療法人社団洞仁



故小池鎮穆氏の遺志により寄附する中谷理事長

会洞爺温泉病院理事長・院長であります中谷玲二氏が、洞爺村役場を訪れ、「故人の遺志を鑑み、小学校児童への図書購入のために、寄附をしたい。」と、多額の金員を寄附いただきました。

村としては、故人のご遺徳に感謝し、ご遺志に従って小学校の児童への図書購入のため、活用させていただくことにしています。

表彰

おめでとうございます

選挙関係功労者表彰

国民参政百十五周年・普選八十周年・婦人参政六十周年を記念して、多年にわたり選挙の管理執行及び明るい選挙の推進に尽力された功績を称え、洞爺村選挙管理委員会委員長の大廣深さん（委員年数二十六年六ヶ月）に総務大臣より感謝状が贈られました。



農林水産大臣感謝状

農林水産省実施の農林水産経営調査に永年にわたり協力され、地道な努力を重ねられた功績を称え、原田尚一さん（十年協力）に農林水産大臣より感謝状が贈られました。



交通事故死ゼロ七百日

平成十七年十二月七日、洞爺村交通安全村民運動推進委員会が社団法人北海道交通安全推進委員会より表彰されました。

同年五月二十一日の交通事故死ゼロ五百日達成に続き、七百日の達成したことは、皆さんの交通安全意識がより高まっている結果だと思っています。

今後も、交通ルールを守り、この記録がさらに更新できるよう、交通安全を推進しましょう。

誕生

おめでとうございます

佐藤 福花ちゃん
父 宇宙さん

母 志保さん

12月15日生まれ 次女

大原

おくやみ

申し上げます

根本 貞子さん

12月5日死去 84歳

財田



戌年生まれの皆さん、
今年是你の方の年です。
しっかりがんばりましょう

